

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(金)

会場:神杉コミュニティセンター

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次に帰ってきて7~8年経つが、友人は三次の良いところは無いと言う。神杉地区にとっては霧は嫌なものである。有害鳥獣も迷惑なので全滅させてほしい。</p>	<p>・有害鳥獣の被害は全国的な課題となっており、三次市としても大きな課題であると認識している。現在の取組としては、防護柵設置の補助や果樹等の環境改善や駆除班による駆除を総合的に実施しているが、集落が一体となって面的に対策をするのが効果的である。集落での対策としては、集落で学習環境点検・改善を行う「モデル集落事業」として治実施しており、現在、7つの集落がモデル集落となっている。1つの集落につき50万円を上限として事業を行っている状況である。</p>	
<p>三次の良いところは、自然だったり、小さいころから遊んできた幼馴染や親族など人間関係の繋がりであると思う。 有害鳥獣については、どんどん増えてきており、勝つ自信がない。半分は生産組合が頑張ってくれて助かっているが、残りの半分は、自分で草刈りをしている。あと10年後には、農地自体がどうなるのか不安である。廻神の自治会長さんたちがアンケートをとっていたが、同様に不安に思っている人が多い印象であった。農業委員会でも農地転用などの管理はしてくれているが、頑張りようがなくなることも考えられる。神杉は広島県で一番最初に構造改善を行い、人と人との繋がりが増えたが、その改善が裏目に出て、現在では、土地の転用が出来なくなるといった課題が出てきている。住宅などに変えることができれば、もっとなんとかかできるのではないかと思うが、転用ができない。このことに対してアドバイスや上に対しての働きかけをもっとしていただきたいと思う。</p>	<p>・農家の方が1年手塩にかけて育ててきた農産物が1日で全滅した時の気持ちを考えると、今まで以上に頑張らなければならないと思っているが、なかなか抜本的な解決に至っていない。今後も地域の皆さんと一緒に解決していきたい。</p>	
<p>神杉は中心部に小学校や保育所、自治連合会があることが良いところだと思う。住み続けたい地域にするためには、地域の方と中心部の拠点づくりを十分にしていきたいと考えている。</p>	<p>神杉地区では、社会増減はほぼ横ばいである。その理由としては、他所の人を受け入れる余地があり、地域の人と共に活動していく取組であると感じている。 定住の面に関しても、他の地域においては地域おこし協力隊が孤立感を感じることもあるという話も聞く中で、神杉地区においては積極的に受け入れる姿勢があるため社会増減に結びついているのではないかと思う。今後も引き続き持続可能な地域になるために皆様の力を借りていきたいと思う。</p>	
<p>平成26年に神杉のビジョンを策定し、その執行状況を検証した。80項目あるビジョンの進捗状況は、70%弱の達成率であった。 未達成の主なものは、ITを使用した情報発信の遅滞と地区全体で農業に関することが遅れていることだった。神杉地区では、70~80代前後の高齢者が中心となり、第一線で活躍されているが、地域との関わりが希薄になってきていることを危惧している。良い人材はたくさんいるが、地域に関わる体制が整っていないことに不安を感じているため、高齢者でもよりどころであるコミュニティに気軽に集まったり、自主的に行動できるような環境作りが必要だと感じる。有害鳥獣問題や担い手問題等のように進めて行けば良いかわからない状態なので、しっかりとリーダーシップをとっていただきたいと思う。レスポンスは早くしてもらいたい。また、情報発信の部分では、ホームページを開設した。多少は効果があるのではないかと考えている。</p>		

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(金)

会 場:神杉コミュニティセンター

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
観光資源は「みよし風土記の丘」だと思う。最近では、市内にある案内看板が綺麗に整備された。また、幹部にタブレットを交付されたり、外国人に日本語を教えるといった取組もされており、変化を感じている。		
・地産地消とはどういう意味で使われているか、市の考えを聞きたい。 (回答を得ての意見) ・地産地消の意味は、商品だけではない。我々は、地で生まれ地で消える。それが一番良い。その間に働く「労働」があり、「地産地消」であると考えてほしい。中心にくる「労働」が人口減を止めるために大事なことであると思う。	三次市は総合計画においても、地域資源を活用して、「みよし産がいつでもおいしく手に入る、食べられる、食べたくなる仕組みづくり」の取組を進めている。地域で作ったものをみんなでおいしく食べていただくということが地産地消であると思っている。そのほかに、学校給食などの「食育」の中でも、三次産のものを食べて子どもたちに地域のことを思ってもらうことも広い意味での地産地消であると考えている。	
神杉は、和も良く絆も深い地域である。今年から神杉自治会の中に、これからの神杉地区を担う青年振興部を発足した。メンバーは、小・中学生の保護者世代である。これからの神杉を背負ってほしいとお願いしており、ぜひ三次市のモデルにしていきたい。	青年振興部を今年立ち上げられ、若い世代が積極的に地域づくりに関わる一つのモデルになれば良いと思う。地域振興部としても期待しており、今後も応援していきたい。	
畦の草刈りや有害鳥獣問題の解決のために、ドローンやICTを活用した機械による作業ができるように推奨してほしい。	ICTの活用については、三次市は光ケーブルが整備され、インフラ機能が充実している。これを生かして具体的に何が出来るかについて、現在、研究中である。他自治体ではドローンを活用して森林の状況を確認したり、鳥獣被害においても、檻にセンサーを付けて、駆除班に連絡が行くようにし、スムーズに駆除ができることで、かなり鳥獣被害が減少したという結果も聞いている。三次市においても、そのような結果を踏まえ、更に研究を進めていきたいと考えている。	
コミュニティセンターの改築要望について、他の地域でも改築要望は提出されているか。	現時点では、神杉地区以外に建て替え要望は出ていない。	
自治会館の改築要望について、神杉地区は何番目に聞き入れてもらえるのか。また、どのような優先順位でコミュニティセンターを改築される予定なのか。	三次市は合併して783カ所の施設があり、棟数だと1,500以上である。更新しながらすべてを建て替えることは不可能に近いので、現在は令和7年を目標に3分の1程度の建物を減らす努力しているところである。保育所や自治会館の耐震化も併せて進めていきたいと考えている。順位付けは難しいが、手続き的には、毎年地域の要望がある中で、3年間の実施計画を立て、その中で優先順位を決めながら進めている。	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(金)

会場:神杉コミュニティセンター

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>3千万円を地域で分けて災害にあった資材を購入するという話があったと思う。神杉にいくらか振り分けられるとのことだが、振り分け金額はどのように決められたのか。</p>	<p>今年度から3年間使っていただける公金については、市内19の各自主防災組織において制定していただいている「地域避難場所」への必要な備蓄食料や水等の整備のために必要な経費として交付させてもらっている。神杉地区においては、25カ所の避難場所を選んでもらっている。基本的には、地域避難場所の数や人口、世帯数を加味して振り分けを行っている。その他の基幹避難場所・補助避難所については、市で整備することを考えている。</p>	
<p>昨年、リョービの電動工具部門が府中から出たいという話が新聞に出ていた。市の幹部や市議会議員はどのような行動に出たのか。結局、京セラに譲って福山に出て約230人の社員が府中から福山に出て行った。三次市からは京セラが無くなった。三次市が企業誘致をしていれば、230人程度が確保できたのではないかと。企業誘致をどのように考えているのか。</p>	<p>現在、工業団地は完売済みであり、新たに3カ所について検討中である。1つは、京セラの跡地で、販売促進に向けて条件の整備を行っているところである。2つ目は、三良坂の工業用地で、現在、条件整備を行っている。3つ目の東酒屋の工業団地については、拡張するための調査等を行っている。これらを整備して企業誘致に取り組んでいく。</p>	
<p>もののけミュージアムで泉谷しげるさんがコンサートをされたが、なぜ市民ホールきりりで開催されなかったのか。市民ホールきりりで開催となれば全国的にもPRでき、三次市の宣伝にもなって誘客につながったのではないかと。</p>	<p>泉谷しげるさんは、災害復興の活動に積極的に取り組まれている。熊本地震の際は、復興アートオブライブといったミニコンサートを開催し、地域の方々と触れあう取組を行われていた。今回もののけミュージアムのオープニングイベントにご協力いただいた経緯も、「昨年7月豪雨を受けて何か取組を行いたい。」という泉谷しげるさん自身の声をいただいたからである。三次市のもののけを生かして地域を元気にしていこう、地域の方々と触れ合っていたらいいという考えに賛同していただき、作品の展示やフリートーク、ミニコンサートをしていただいた。そうした趣旨で活動していただいたということをご理解いただきたい。</p>	
<p>市議会で150億円の基金を動かすなという話があったが、150億円の基金を有効活用して漢方薬の会社を作れば、大阪市の関西電力のように配当金収入で三次市が潤うことに繋がるのではないかと。</p>	<p>基金の活用については、今までも使わずにきたわけではなく、現在も目的を持って基金を使用しており、20以上の基金を活用している。特別会計を含めると180億円ある。市の一般会計の全体は350～400億円であり、常に財源が厳しくなった時点(例:災害発生時など)で13億円財調基金を移している。基金が非常事態の為に確保しておく貯金と考えるならば、ある程度確保することを考えておかなければいけない。基金を有効活用することによって産業・雇用も含めて施策に反映している基金もある。合併により新しく積み立てた基金が40億あり、これは償還が済めば使用でき、現在は償還済みである。一般会計ベースでは156億円ある。これから施策の中で活用すべきところと我慢すべきところを総合的に判断しながら進めていきたい。貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(金)

会 場:神杉コミュニティセンター

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
市立三次中央病院の救急窓口の対応について、病院に来る前に電話をかけてきてくださいとのことなので、電話をかけ容体を伝えたところ、「今は引継ぎの時間帯なので、他の病院へ行ってください。その方が早く診てもらえますよ。」と言われた。しかし、家から近く、設備も整っているのもそのまま市立三次中央病院へ行って受診したところ、病名は時間を争う心筋梗塞だった。院内には良い理念がかかっているが、救急窓口の対応を改めてもらいたい。	委託職員等含め全体で600人以上の職員がいるが、職員全体の理念としては「患者のため、ご家族のため」ということで仕事を進めているが、中にはご指摘なども受けることもある。その場合には該当職員に対し指導を行ってきているが、該当職員が不明の場合は職員全体に周知していく形をとり、安心安全な医療の提供を基本にしている。色々なご意見を踏まえ、日々改善していきたいと考えている。	
市立三次中央病院の車の昇降場所について、正面玄関付近(タクシー乗り場とバス乗り場周辺)は、天候が悪い日には不便で、車いすの人にとっても段差があって不便との声も聞く。屋根付きの駐車場もあるが、入り口に近いところで屋根付きで乗り降りできるように改善して欲しい。	車の昇降について基本的には、正面玄関付近での車の乗り降りは禁止している。タクシーやバスが多く非常に危険なエリアである。構造的な問題もあるので正面玄関付近はすぐに乗り降りが可能ということは難しい。現時点ではワインロード沿いに屋根付きエリアがあるのでそこを利用していただきたい。	
地域医療構想・病院再編に関して	地域医療構想・病院再編に関して新聞に掲載された件については、三次中央病院は北部の拠点病院であるため、現在は病床数の減少は検討されていない。しかし、今後、人口減少を受け、医者不足などの背景から病床数の減少という課題も出てくるが、医療体制の整備を進めなくてはいけないと考えている。	
外灯について(防犯・交通安全の観点から)、外灯が少なく、子どもたちの登下校に不安がある為、外灯の数を増やしてほしい。	現状としては学校や道路管理者(国土交通省・広島県・三次市)警察・保護者を含めた合同点検を実施し、対策が必要な場合は箇所ごとに検討し、より効果的な対策になるよう取り組んでいる。	
災害時の避難場所の設備について、トイレの問題や1階でゆっくり休める場所等、設備不足を感じる。	市では自治体単位で防犯灯を整備される場合は補助をしている。この制度は利用が多いため神杉地区も検討してもらい、利用したい場合は、相談していただきたい。避難所に関しても、高齢者が来やすい環境づくりは重要な課題であると感じている。しかし、施設整備と関わることなので、すぐに行動に移すことができない。今後は高齢者が落ち着きやすい環境の整備を検討している。	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(金)

会 場:神杉コミュニティセンター

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>市民ホールきりりの事業について、毎月広報の冊子が入っているが、興味がわからないものばかりである。特定の人ばかりが活用しているのではないか。活用方法や利用世代についてもっと考えるべきだと思う。</p>	<p>指定管理者は暮らしサポートみよしであり、どのような事業をしていくかということ、三次市教育委員会や三次市文化連盟、きりり倶楽部を含めた事業運営委員会が協議をしている。この事業には、育成事業であるKIRIRI児童合唱団などがある。また、ステージを使用して市民の方に楽しんでいけるような舞台芸術の提供を考えている。現在も事業をした場合は、満足度等把握するためにアンケートを実施している。今後も市民の意見を伺いたいの、ご意見があれば提案していただきたい。</p>	
<p>住民サービスに関して(高齢者は利用しにくい)、税務申告の際、神杉地区は三次市役所へ行くことに関して、高齢者は不便を感じる。今後、高齢化が進む中で、住民サービスはどのように比例していくのか。</p>	<p>申告会場の集約について、距離感に関して不便に感じるところも把握している。集約においても平成27年度以降、51会場を職員が巡回型で相談にのるという形をとっているが、職員減少の中で継続維持が難しいという背景もある。また、マイナンバー制度の法制化に伴い、個人情報保護及び管理が問題視される中で、巡回型の場合はサブサーバーを持ち出さなければならない。持ち出すということは、該当地区だけではなく市民全員の個人情報を持ち出すということになり、情報漏洩のリスクが非常に高くなるという課題がある。</p> <p>市民の要望の中で一番多いのは、「待ち時間の短縮」である。対処法に関しては、東部4会場においては経緯と今後の対応については説明済みである。ほかの地区においては川地・粟屋地区が説明の予定がある。</p> <p>【今後の対応策について】</p> <p>国の方針としては、スマホ等ICTを駆使した申告を推進しているが、三次市としては高齢者が多いの中で、対面型でしっかり相談できるよう納得できるような申告体制を維持していくよう検討している。</p> <p>①申告相談についてはサービスの低下は生じないと検討している。</p> <p>②市民の方々が申告期間にはすぐに準備が出来るよう事前相談会を別に開催予定ある。</p> <p>③従来は地区ごとに日にちを市側が指定し、申告会場を制定していたが、今後は各地域においての日程割りと共に市民が都合の良い時に申告に来て受付を行う予定である。</p> <p>④待ち時間の短縮については、繁忙時には職員の増員を予定している。</p>	
<p>災害時の高齢者の扱いについて、車いすや他人の補助がないといけない場合の方(専門施設を利用していない方)は何処へ、どのような避難(避難方法を含めた)をすればいいか。対策を早急に検討していただきたい。</p>	<p>高齢者や障害をお持ちの方の避難に関しては、市としても課題であると感じている。実際に取り組んでみると、本人の同意等のプライバシーの問題が上がってきている。現在は、危機管理課と福祉保健部共同で過去4回勉強会を開催している。ケアマネージャーや民生委員など関係組織にも相談し、筋道を立てていきたいと考えている。加えて、避難後のケアについても重要視している。神杉地区は女性の消防団員も多くいるため、避難所の運営について協力依頼をしている。</p>	